

## 人気絶頂の音楽会

志村 良知

九月七日、神奈川県民ホールでの角野隼人の演奏会に行った。

角野は、二〇二〇年に東大総長大賞を受けて工学部大学院修士課程を修了し、翌年反田恭平が二位になったシヨパンコンクールでセミファイナルに残って大きな話題になった。

彼はクラシックのみならず音楽のあらゆるジャンルをカバーするマルチロールのピアニストで、YoutubeではCateen(かていん)という名でロック、ジャズ、ポップスからクラシックまで、自作・即興から古典までをアップロードしており、人気絶頂のYoutuberでもある。

今回の演奏会は、マリン・オルソップ指揮ウィーン放送交響楽団の来日公演に合わせたもので、曲目はモーツアルトのピアノ協奏曲第二六番。全曲長調の明快な曲で、未完の部分の多い単純な曲とも言われる。それを選びによって何故、共にマルチロールの角野とオルソップのコンビが弾くのか、ここはガーシュインがラベルじゃないのか。

しかし、オルソップの軽快で歯切れの良い指揮に載ってウィーンのオーケストラの音と角野のソロ・ピアノが、明るく美しく心地よい。これがモーツアルトの心の響きか。これをバツクに勉強したら成績が上がりそう。

終わって、七割はご婦人で満席の観衆で立ち上がったのは約一割、ちょっと食い足りないか。後ろにベートーベンの交響曲第七番が控えているのに女性コンサートマスターが一番熱心に弓を振り回し、観衆に楽団員全員が加わってのアンコールに伝えて角野が再登場。

自作の「二四の調によるトルコ行進曲変奏曲」を殆ど即興で熱演 (Youtube にアップされている同曲と大きく違った)。コンサート・グランドピアノという楽器の持つ表現力、威力をまざまざと見せつけた演奏の凄さに今度はほとんど総立ち、驚いたことに隣のオクさんまで涙を流して立ち上がる。それはまさにCateenの降臨であった。

ベートーベンの交響曲第七番も古き大家に比べて引き締まり、はじけるところははっちゃけての演奏で引きまれたが、圧巻はやはり角野のソロであった。

(Sep 19 2024)